

平成24年1月～12月 事業報告

■1月13日（金）新年互礼会・理事懇談会

定例の理事懇談会が開催された。本年度計画された3つの収益事業について進捗報告がなされた。物件情報については350件のDMで掲載の要請を、リーフについては見本を完成し会員全員に購入のお願いをしたが反応が殆どなかった。あきらめずしごとく作業するよう激励された。

予算は厳しく支払いを保留している項目もある。3月の会費収入で精算することにする。NPOは平成24年で10年を迎える、これまでの活動の概略がPPで説明され、ここで新しく「日本外断熱協会」を立ち上げたいとの提案が堀内事務局長よりあった。これについては別に5役会議で検討することになった。その後、新年互礼会が開催された。



■1月30日（月）五役会議

理事長、田中副理事長、宮坂専務理事、堀内、田村が出席し五役会議を開催した。懸案の議連活動については宮坂専務理事が笠先生、中村先生の都合を聞いて次回の議連を早急に開催するよう調整することとなった。堀内事務局長より日本外断熱協会構想について趣旨説明後、意見交換をおこなった。外断熱推進会議として米国の外断熱協会（EIMA）のように木造建築を対象とするか、外断熱推進会議の組織の在り方について議論された。協会構想は時期尚早であり、収益事業の立案が先決となった。

■2月4日（土）第5回 「住まいを長持ちさせるには」市民講座最終回

一昨年の東京都「提案公募型産業交流促進事業」におけるホームタウン南大沢見学会及び外断熱改修セミナーを通じて始まった、多摩ニュータウンのNPO団体 多摩ニュータウン・まちづくり専門家会議（たま・まちせん）との交流から「多摩市永山公民館市民企画講座」”私たちの終の住処を考える～大震災を契機に暮らし方を見直そう～”がスタートした。当初は、多摩市の補助事業ということもあり「外断熱」という言葉に慎重だったメンバーも外断熱の良さ、必要性を感じています。平成23年6月25日から始まった「多摩市永山公民館 市民企画講座」は平成24年2月4日が最終回になります。ここでは「集合住宅を終の住処とするために」をテーマに1部が山岡淳一郎氏の「マンション再生への道標～コミュニティーと建物」の講演、第2部はマンション住民、浅野さん、横山さん、山岡淳一郎氏のパネラーによるパネルディスカッションがあった。また、多摩ニュータウンにおける外断熱改修の必要性についてお話をした、阿部多摩市長が会場に見えられ「省エネ・健康・快適となるような住宅政策をぜひ推進していきたい」との力強いお言葉をいただきました。この会場で外断熱関連7社の協賛によるブース展示があった。また、現在たま・まちせん調整中ですが、今回協賛いただいた企業の皆様には、ご了承いただければ、多摩ニュータウンの管理組合やマンション管理士を対象としたマンション大規模修繕講座または外断熱改修連続講座において講師として説明していただく場を提供したいと考えています。

■3月13日（火）TC163/SC3 シンポジウム

建築環境の熱的性能とエネルギー使用（ISO/TC163）国際規格シンポジウムが例年通り開催されTC163/SC3の報告として「外断熱の最新事情」の題で田村が講演した。参加者 約50名

■4月26日（木）クラーアンドレア氏 セミナー

彼女はエネルギーパスの邦訳者である。第27回外断熱技術セミナーとして「エネルギーパスとパッシブハウス～欧州の最新事情」～ドイツにおけるゼロエネルギー住宅への取り組み～についてを開催した。衆議院第二議員会館で開催したため国会議員12名（秘書出席含む）ほか55名の参加で盛会であった。彼女は東京以外にも大阪、札幌で講演を行った。日本でもエネルギーパスが必要ではないかという意味で啓蒙となるセミナーであった。

■4月27日（金）理事懇談会

定例の理事懇談会が開催され、省エネ改修の窓口にNPOがなって結果として外断熱を勧めるといった収益の見込める仕組みが必要ではないかなどの意見が出された。外断熱推進会議を日本外断熱協会に改める件は別に5役会議でよく検討することとなった。

■5月10日（木）まちせん 外断熱塾打ち合わせ

2/4の第5回の多摩市民講座に協賛いただいた7社に集まっていただいて平成24年度に開催する勉強会 外断熱塾のスケジュールや内容について打ち合わせた。その結果6/16（土）にキックオフセミナーとして堀内事務局長のこれまでのNPOの話、1. 建物と、温度と、病気の話（東邦レオ）2. 外断熱と内断熱マンションの省エネ性能比較（綿半鋼機）を開催することになった。この塾は平成25年2月までおよそ5回開催される予定。

■5月11日（金）外断熱懇話会

2011年度の外断熱懇話会（会長に㈱ナイスの平田社長が就任した）の事業報告と2012年度の事業計画が検討された。外断熱懇話会セミナーとして堀内事務局長が「戸建住宅における日本の外断熱について」と題して講演を行った。㈱ナイスが事務局として本年も活動していく。

■5月21日（月）五役会議

平成24年度の事業計画について、特にアンケートの結果を検討する中で今年はNPO法人設立10周年を迎えることもあり、①11月に記念式典、記念講演②秋に「外断熱通信第5号」を発行することなどが決められた。なお、会議を協会に改める件は保留となった。またアンケートについてはNPOとしてまとめ回答者に返信することになった。

■5月30日（水）理事会・総会

平成24年度通常総会を開催致した。総会では1号議案から6号議案まで審議承認された。新理事として昨年度退任された宮原理事の後任に近藤良一氏（関東支部準備委員）、空席となっていた東北支部の担当理事に佐貫隆史氏が新任された。東海支部については、地域の状況をみて検討することになりました。本年度は、当NPOが法人化して10年目を迎えます。その記念事業として1. 外断熱通信第5号を発行する2. 外断熱デザイン・ディテールハンドブックを発行する3. 11月に設立10周年記念講演会及びパーティーを開催する ことが決まった。また、総会前の理事会ではマンション管理組合への講師派遣について「希望される外断熱メーカー、企業を募り、働きかけを行なっては」と理事長から提起があった。

■6月4日（月）アンケート回答者に返信

平成24年度の事業展開にあたり120名の会員にアンケートをお願いし29通の回答を得た。特に事業の範囲をRCだけではなく木造も入れるべきだ、など多くの意見が出された。5/30の総会で説明承認されたアンケートのまとめを回答をいただいた方に返信した。

■6月16日（土）まちせん 外断熱塾（第1回）

たま・まちせん&外断熱推進会議主催「外断熱塾」が永山ハウスで開催された。昨年度、NPOた

ま・まちせん主催、NPO法人外断熱推進会議協力による【多摩市永山公民館市民企画講座】「私たちの終の住処を考える」として、全5回の外断熱や省エネ、エコに関する連続講座を開催し、好評のうちに終了した。講座に参加した皆様からは、「外断熱ってこんなに良いのに、なぜ拡まらないの?」「自分が住むマンションの管理組合に外断熱の良さを伝えたいがうまく伝わらない!」「周りのマンション管理士や設計士に外断熱の正しい情報を伝えたい!」・・・などの声を聴きました。マンションの居住者・管理組合の役員をはじめ、マンション管理士、設計士の皆様には、是非とも省エネ改修(外断熱)の情報を知っていただきたく、今年度も連続講座を企画いたしました。今回は、NPO 法人外断熱推進会議及び会員である省エネ改修(外断熱)関連メーカー、企業のメンバーを講師に、省エネ(エコ)改修に関する生の情報(実務)を知っていただく企画としています。

第一回 外断熱塾 テーマ1.「建物と、温度と、病気の話」 講師:外断熱建築マネージングアドバイザー 和田清栄(東邦レオ) 「建物と、温度と、病気の話」 2.「外断熱と内断熱マンションの省エネ性能比較」～非常常エネルギーシミュレーション～ 講師:外断熱建築技術アドバイザー 笛場保弘(綿半鋼機) 参加者約30名

■7月11日(水) 東北支部設立

関係する12社が集まり東北支部の発足が確認された。支部長は佐貫設計の佐貫隆史理事が、事務局長には山科氏(東邦レオ)が選出された。10/3は東北初のセミナーが開催される予定。

■7月13日(金) 理事懇談会

特別会計は規約を作成すること。外断熱通信5号の編集会議は7/30に開催することになった。馬淵前国土交通大臣に「環境・省エネ建築推進のための建設行政についての要望書」を提出することになった。

■7月27日(金) 馬淵大臣に要望書を提出

環境・省エネ建築推進のための建設行政についての要望を理事長名で提出した。提出した文書は添付の通りであるが要点は下記の通りである。

1. 前提として

環境・省エネ建築を実現するためには、建築の諸設備の性能向上もさることながら、RC建物の外断熱工事が必須のことである。言い換えると、ザルで水を掬うのはエネルギーロスが明らかであり、まずは穴のあいた桶を作り直してから効率良く水を掬う手段を考えるべきである。

2. 要望の内容

- (1) 外断熱工法普及に向けた全国規模での講習会を開催すべし
- (2) 先駆的取り組みとして、公共建築物の新築及び改築時に外断熱工法を採用すべし
- (3) 民間デベロッパーの外断熱建物の供給を支援するため制度を整備すべし
- (4) 既存建築物の大規模修繕時における外断熱工法の採用や、既存建築物の建替え時における外断熱工法の採用を促進するための政策誘導をすべし
- (5) 住宅(戸建住宅、共同住宅)を建築物省エネ改修推進事業対象にすべし

■7月30日(月) 第28回外断熱技術セミナー

設立10周年記念セミナーとして「ドイツにおける省エネ・防火建築の現状とディテール紹介」と題してセミナーが開催された。最初に田中先生より「外断熱工法のISO化の現状について」の講演があり次いで、ドイツのエコ建築家 ヴォルフガング・レーナート氏から環境先進国ドイツにおける防火規制など下記の題で講演があった。

* 湿式外断熱工法の防火について

* パッシブハウス仕様幼稚園における火災(全焼)について

* 歴史的建築物の断熱（内断熱）施工について

* ドイツにおける外断熱の歴史について

参加者 約 50 名で好評であった。

■8月2日（木）五役会議

10周年記念行事の進め方について打ち合わせた。理事懇談会ではテーマを絞って出席者に意見を言っていただくような議事進行にすることが提案された。

■8月2日（木）第29回外断熱関西セミナー

第1部 建築環境と健康について（岩前篤）第2部 高松市 準パッシブハウスの環境データ報告の2件の報告があった。

■9月7日（金）外断熱建築アドバイザー講習 スキルアップ講座

第3回 外断熱建築アドバイザー認定講習・考査試験が開催された。講習会テキスト（事例に学ぶ断熱計画・施工の考え方と進め方/田中辰明・柚本玲共著オーム社 2,940円・税込）。

外断熱推進会議の歴史と活動（田村）、外断熱マンションの設計と施工（ハウスタイルズ石川）、断熱計画・施工（ハウスタイルズ小島）の講義の後考査が実施された。受験者（9名）全員が合格でマネジメントまたは技術アドバイザーまたはマネジメントと技術アドバイザーの両方の認定証書とIDカードを発行する。

この日 18:00 からスキルアップ講座として大橋周二氏より「外断熱改修へのアプローチから設計まで」「設計・積算・監理・引渡しまで」「外断熱改修工事の課題」の3部に分けて講演があった。

参加者 25名で実のある講演であった。

■9月8日（土）第2回 外断熱塾 永山ハウス

1. 「北海道における外断熱改修事例」

～管理組合との出会いから改修設計・積算・監理・引渡しまで～

大橋周二氏（北海道建築技術協会・外断熱委員会副委員長）

2. 「外断熱改修で変わる建物と住環境」 ダウ化工(株) 平川秀樹

3. 「世界と日本の外断熱ディテール紹介」 Sto Japan(株) 鈴木浩之

4. マンションの改修に関するディスカッション

マンション管理組合の方も参加し、質疑応答も活発で有意義なセミナーであった。25名参加

■9月26日（水）ディテール編集について打ち合わせ

10周年記念事業である外断熱ディテール集について北島様と打ち合わせを行った。結論は新築の外断熱建物についてどなたかにモデル案を書いていただいてそれに習って各社に執筆をお願いしたらどうかということになった。

■10月3日（水）第一回東北支部外断熱セミナー

第一回東北支部外断熱セミナーが開催された。第1部は「10年目を迎えた外断熱推進会議の活動と外断熱建築の今」と題して堀内事務局長が講演し、基調講演は山岡淳一郎氏から「電力大転換と外断熱」と題して福島原発事故以降の日本のエネルギー事情と外断熱の建物について講演があった。第2部は山岡淳一郎氏が司会で田中先生 佐貫隆史 新井貴巳 堀内正純各氏のパネラーとパネルディスカッションを行った。会場からの質疑応答もあり有意義なセミナーであった。その後反省会ももたれ（10/10）今後の東北支部の活動計画が決定された。約90名の参加。なお、本セミナーには国や県、建築士会、大学などの多くの後援を戴いた。

■10月12日（金）理事懇談会

定例の理事懇談会が開催された。定例の議題以外に今回から出席者の意見を多く伺うためテーマを

「NPOの収益事業」としてご意見を出していただいた。決定的な収益事業の提案はありませんでしたが出された意見を参考にNPO内でよく検討したいと思います。

■11月10日（土）まちせん 見学会

第3回の外断熱塾として今回は小金井市中町にある「武蔵野小金井ハイデンス」（三和建装㈱）の「改修工事会社から見た外断熱改修工事」の見学会が開催された。約30名の参加でした。第4回の外断熱塾は平成25年の1月19日に、3月16日が最終イベントとなる。

■11月15日（木）NPO設立10周年記念講演会とパーティー

講演1 「外断熱ISO化の動向と国際的潮流」（田中先生）記念講演は「環境にやさしい建築と外断熱」（木村建一先生）でした。その後堀内事務局長の司会で国会議員（前田武志 中村哲治 柿澤未途）と田中先生とのパネルディスカッションが開催され参加者との活発な意見交換もなされた。参加者約130名 その後、約50名が記念パーティーに参加された。

■11月23日（金）第3回北海道セミナー

NPO法人外断熱推進会議北海道支部は社団法人 北海道建築技術協会と共催し第三回北海道外断熱技術セミナー「外断熱マンションに暮らそう」～省エネ法の改正と外断熱の必要性～を開催した。講演1 『外断熱のISO化と第2回EU国際外断熱フォーラムの報告』田中辰明氏
講演2 『日本の住宅省エネ施策・基準の動向』～住宅・建築物に関わる省エネ基準の見直しについて～鈴木大隆氏
講演3 『札幌市における省エネ建築化推進の取り組み』小島孝仁氏
事例紹介 『千歳市での大規模マンションと賃貸アパートの外断熱改修』大橋周二
展示ブースには㈱テスク ダウ化工㈱ Sto Japan㈱が参加した。参加者115名

■12月10日（月）第29回外断熱技術セミナー

第一部では、さいたまパッシブハウス（平成21年 建築・住宅関連先導技術開発事業＜国土交通省＞/施工・ハイシマ工業（株））の温熱・湿気、換気システムの状況について、測定結果を基に、京都工芸繊維大学大学院准教授・芝池英樹博士から紹介が行われた。第二部では、スウェーデンにおいてパッシブハウスに多く使われている熱回収型換気システムメーカーREC Indovent AB社のケネス・カールソン社長から、スウェーデン・欧州のパッシブハウス等について最新の情報をお聞きした。（通訳 友子ハンソンさん）第三部では、外断熱・パッシブハウスに適した省エネ型換気・冷暖房システム紹介があった。参加各社（4社）から外断熱建物（マンション、住宅、高齢者施設など）、高气密・高断熱住宅、パッシブハウスに適した「省エネ型換気・冷暖房システム」に関する製品説明が各20分間なされた。セミナー終了後忘年会が開催された。